



"分散投資のバランスファンド。だけど注意点も"

一般社団法人確定拠出年金推進協会

2022/1/20 配信

DC ニュースレター

確定拠出年金の運用商品に必ずといってよい程ラインアップされているのが、「バランスファンド」と呼ばれる投資信託です。バランスファンドは、国内株式、外国株式、国内債券、外国債券など多様な資産に分散投資するよう設計されています。なぜ、このようなファンドがラインアップされているのでしょうか？

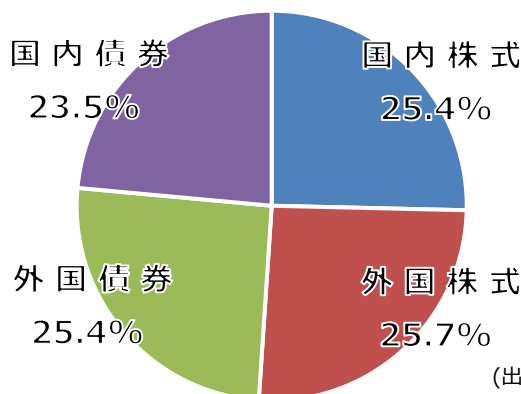
国も行っている分散投資

年金運用といった長期の運用において最も重要な教えのひとつに、「分散投資を行いましょう」というのがあります。長期的に安定した運用成果を上げるには、国内株式、外国株式、国内債券、外国債券など

複数の投資対象資産に広く分散して、リスクを軽減しながら運用することが好ましいとされています。実は国の行う年金運用(公的年金)でも、この教えを忠実に守っています。

公的年金の運用を司る年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)では、複数の資産に投資することでリスクを抑えながら期待収益率を上げる「分散投資効果」を用いた運用を行っています。下の円グラフは、2021年3月末時点の公的年金積立金の運用資産の構成割合を表したものです。4資産に分散投資しているさまが、よく分かります。

公的年金の運用資産の構成割合
(2021年3月末時点)



(出典)年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)



確定拠出年金に関するご相談窓口はこちら
TEL 03-5689-3358
MAIL 401k@member.deco-pa.com

一般社団法人確定拠出年金推進協会
東京都文京区後楽 2-2-14 トークスビル 1F
<https://www.deco-pa.com>



GPIF では、効果的な分散投資のために、基本ポートフォリオ（長期的な観点からの資産構成割合）を策定しています。現時点の基本ポートフォリオは、国内株式、外国株式、国内債券、外国債券の4資産にそれぞれ 25%前後投資することとしています。

（※リート等4資産以外の資産はリスク・リターン特性に応じて4資産のいずれかに区分し、資産全体の5%を上限に運用を行うこととしています。）

なお、基本ポートフォリオの策定方法の概略は、

- ① 各資産の期待リターン(今後長期的に期待できる投資収益率)を算定し、
- ② 各資産の過去のリスク値(標準偏差:価格変動のばらつき度合い)を計算のうえ、
- ③ 目標とする運用利回りを確保するうえで最もリスクが小さくなるような4資産の組合せ比率を算出する。

となります。

上記の基本ポートフォリオの策定方法は、運用の専門家が行う一般的な手法のひとつですが、個人投資家には難しい手法です。みなさんが専門家と同様の手法で基本ポートフォリオを策定のうえ、確定拠出年金の運用を行うのは容易ではないでしょう。

これ1本にお任せ、分散投資のバランスファンド

そこで、用意されたのがバランスファンドです。バランスファンドの資産構成は、専門家である運用会社がそれぞれの手法に基づき策定したものです。大抵のバランスファンドには、株式の比率の高いもの、中くらいのもの、低いものといった数本のシリーズがありますから、みなさんは、その中から自分の運用の好みにあったものを選ぶだけです。あとは資産配分および個々のファンドの組合せまで「全てお任せ」となり、みなさんがあれこれ考える必要はありません。

バランスファンドは完ぺきではない

けれど、ご注意ください。バランスファンドは決して完ぺきな商品とは言い切れません。それは、例えば、以下のような理由によります。

【ファンドが組入れる個別ファンドに関して】

バランスファンドが組入れる個別ファンドは、ファンドの設計上定められており、みなさんが別途選ぶことは出来ません。もし商品ラインアップにある別のファンドに魅力を感じて投資をしたい場合には、バランスファンドとは別に運用指図する必要があります。

【ファンドにおける外貨建資産の比率に関して】

大抵のバランスファンドでは、外貨建資産の比率が高くなりすぎないように設計されています。為替リスクがあまり大きくなりすぎないようにするためなのですが、デメリットもあります。近年の日本経済は低成長が続いた一方、アメリカ経済はIT産業が牽引し好景気が続きました。今後も内外の経済成長にこのような開きがある場合は、株価にも何らかの影響があるでしょう。外国株式の比率が低く抑えられたバランスファンドは、パフォーマンスが劣る結果になるかもしれません。

こうしたバランスファンドの弱点を補う方法としては、バランスファンドと他のファンドを組み合わせるなどの方法が有効でしょう。

もちろん、バランスファンドを用いずに、自分で組合せを考え分散投資しても全く問題ありません。GPIFは難しい手法を用いていますが、結果は4資産に4分の1ずつ投資するというシンプルなものでした。そう考えると、気楽に取り組むことが出来るでしょう。なお、資産配分を考える際、目安として株式の合計比率は、「30%以下は、リターンもリスクも小さめで安定的な運用」、「70%以上は、リターンもリスクも大きめで積極的な運用」と認識されるとよいでしょう。



確定拠出年金に関するご相談窓口はこちら
TEL 03-5689-3358
MAIL 401k@member.deco-pa.com

一般社団法人確定拠出年金推進協会
東京都文京区後楽 2-2-14 トークスビル 1F
<https://www.deco-pa.com>

